



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



2022年7月13日朝刊中部版

記事を読んで、問いに答えなさい。

①島田大祭・帯祭りの内容で、県指定無形民俗文化財になっていることとは何か。記事の中から二つ抜き出して答えなさい。

() ()

②今年(2022年)10月に開催予定の島田大祭・帯祭りは、110回目を迎えるが、さまざまな問題を抱えている。記事を参考にしながら、その問題点を説明しなさい。

[]

③島田大祭・帯祭りを今後も存続させ、市全体の活性化につなげるには、どのような方法があるか。記事を参考にしながら、あなたの提案を説明しなさい。

[]

中部記者コラム

黒潮

3年に1度の「島田大祭・帯まつり」を10月に控えた島田市。コロナ禍を経た初の祭りであることに加え、深刻な担い手不足も課題となり、関係者は試行錯誤しながら110回目の開催に向けて準備を進めている。同市最大の観光イベントという側面も踏まえ、継承についてあらためて考えてみたい。

初めて大祭を取材したのは2019年。大井神社の神様がかつて鎮座した場所に「里帰り」する祭事だが、その規模と内

島田大祭・帯まつり

祭り文化 感じる街に

印象も持たれてきたという。既に人手が足りず「町外や市外の参加者に助けられている」(島田大祭保存振興会の杉山高夫会長)といい、同振興会は負担軽減に向けた運営の見直しや、若い世代へのPRを模索中だ。大名行列を担う第七街の島田帯祭保存会も、行列の衣装や道具を持って小学校に出向く出前講座に地道に取り組む。

3日間の集客数が数十万人ともいわれる大祭の観光資源としての活用はどうか。「おび通り」など帯をイメージした名称や商品は目にするが、開催年以外に祭り文化を感

じる機会はほとんどない。「島田髷(まげ)まつり」や川越し街道など宿場町の歴史を伝える文化資源とともに、祭りを体感できる場所があってもいい。

みこし渡御のルートである市中心部は空洞化が進み寂しさも漂うが、「(続ける理由は)この町で育った誇り」「地域がまとまる唯一の行事」と住民の心意気は健在だ。当事者の努力はもろろん、より多くの市民が文化資源として意識することが、祭りの存続や市全体の活性化につながる。全体が期待している。(島田支局・中村綾子)

作問者: NIEアドバイザー 伊藤 大介(静岡聖光学院中学校・高校 教諭)

(中学校～高校/社会、総合)

年 組 名前



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう

解答例



2022年7月13日朝刊中部版

記事を読んで、問いに答えなさい。

①島田大祭・帯祭りの内容で、県指定無形民俗文化財になっていることとは何か。記事の中から二つ抜き出して答えなさい。

(**大名行列**) (**鹿島踊り**)

②今年(2022年)10月に開催予定の島田大祭・帯祭りは、110回目を迎えるが、さまざまな問題を抱えている。記事を参考にしながら、その問題点を説明しなさい。

(例) 費用の負担問題や町外や市外に参加者を求めるほど祭りを維持する人手が不足している問題。

③島田大祭・帯祭りを今後も存続させ、市全体の活性化につなげるには、どのような方法があるか。記事を参考にしながら、あなたの提案を説明しなさい。

(例) 天竜浜名湖鉄道がアニメのキャラクターや芸能グループとタイアップ企画を進めているように、伝統と歴史のある祭りに若者目線のおしゃれなスタイルを取り入れていくこと。など

中部記者コラム

黒潮

島田大祭・帯まつり

3年に1度の「島田大祭・帯まつり」を10月に控えた島田市。コロナ禍を経た初の祭りであることに加え、深刻な担い手不足も課題となり、関係者は試行錯誤しながら110回目の開催に向けて準備を進めている。同市最大の観光イベントという側面も踏まえ、継承についてあらためて考えてみたい。

初めて大祭を取材したのは2019年。大井神社の神様がかつて鎮座した場所に「里帰り」する祭事だが、その規模と内

容の複雑さに驚いた。丸帯を木太刀に掛けた奇抜な衣装の「大奴(おおやつこ)」を擁する大名行列と鹿島踊りはともに県指定無形民俗文化財。屋台上踊りに一流の長唄芸人を招く歴史も江戸時代から連続と続く。「街」と呼ばれる各町の祭典組織で役割分担され、口伝も多い。島田掛川信用金庫の定期積金「祭講」は、祭りに情熱をささげる住民の積み立て文化を象徴する存在だ。

一方、祭りの内容は市全体では知られておらず、費用の問題や独特なルールから参加しにくい

祭り文化 感じる街に

印象も持たれてきたという。既に人手が足りず「町外や市外の参加者に助けられている」(島田大祭保存振興会の杉山高夫会長)といい、同振興会は負担軽減に向けた運営の見直しや、若い世代へのPRを模索中だ。大名行列を担う第七街の島田帯祭保存会も、行列の衣装や道具を持って小学校に出向く出前講座に地道に取り組む。

3日間の集客数が数十万人ともいわれる大祭の観光資源としての活用はどうか。「おび通り」など帯をイメージした名称や商品は目にするが、開

じる機会はほとんどない。「島田髷(まげ)まつり」や川越し街道など宿場町の歴史を伝える文化資源とともに、祭りを体感できる場所があってもいい。

みこし渡御のルートである市中心部は空洞化が進み寂しさも漂うが、「(続ける理由は)この町で育った誇り」「地域がまとまる唯一の行事」と住民の心意気は健在だ。当事者の努力はもろろん、より多くの市民が文化資源として意識することが、祭りの存続や市全体の活性化につながる

と期待している。(島田支局・中村綾子)

作問者: NIEアドバイザー 伊藤 大介(静岡聖光学院中学校・高校 教諭)

(中学校～高校/社会、総合)

年 組 名前